

第2次JOC 中期計画(2025-2028)



アスリートとともに スポーツの力を 社会の力へ

スポーツには、無限の力がある。

**私たちJOCは、多様な“スポーツの力”を今いちど見つめ、
このポジティブな力を社会へと届けていくための活動を続けていく。**

よりウェルビーイングな生活へ。よりダイバーシティ&インクルージョンな世界へ。

社会が大きく前へと進もうとする今だからこそ、スポーツの力を社会の力へ。

**スポーツの力をいちばんよく知るアスリートとともに、
アスリートたちを応援・支援するたくさんの仲間たちとともに、**

**私たちJOCは、スポーツとオリンピックの新たな力を拓き、
将来世代へとつなげていく活動を実行し続けていく。**



第2次JOC

中期計画(2025-2028)

全体像

第2次JOC中期計画(2025-2028)基本目標 「アスリートとともに スポーツの力を 社会の力へ」

PILLAR 1

オリンピックの価値発信

オリンピックの力を、
社会の力へとつなげていく。

オリンピック・ムーブメントの推進
アスリートとの連携と価値向上
TEAM JAPAN ブランドの確立・浸透
スポーツを通じた社会課題の
解決に向けた取り組み強化
オリンピズムが浸透した社会の
実現に向けた発信強化

PILLAR 4

JOC組織力・基盤強化

自らを律しながら、
よりよい社会との関係を構築していく。

組織体制の整備
人財の活性化
財務基盤の安定化
コミュニケーションの活性化

PILLAR 2

アスリートの育成・支援

“憧れられるアスリート”が育つ
環境をつくっていく。

憧れられるアスリートの育成に向けた支援の充実
アスリートを取り巻く環境の整備
指導者・スタッフの育成・支援
国際総合競技大会派遣を通じた育成・支援
データ&テクノロジー活用支援

PILLAR 5

NF連携・支援

競技団体の仲間たちとともに
活動していく。

組織基盤強化に関する連携・支援
財政基盤強化に関する連携・支援
スポーツの価値発信及び
社会貢献に関する連携・支援
アスリート育成に関する連携・支援
国際プレゼンス向上、国際交流の
推進に関する連携・支援

PILLAR 3

国際交流の推進

スポーツの力を、
国際平和と友好のために使っていく。

JOCの国際プレゼンス向上
国内外のスポーツ組織等との連携・交流推進
NFの国際プレゼンス向上、
国際交流の推進に関する連携・支援
国際人材の発掘・育成・活用
アスリートの国際交流促進

国内外のさまざまなステークホルダーと連携（IOCをはじめとする国際スポーツ組織、関係省庁、JSC、JSPO、JPC、パートナー企業、パートナー都市等）

PILLAR 1

RISING TOGETHER®



オリンピックの価値発信

オリンピックの力を、
社会の力へとつなげていく。



目指す姿

多くのアスリートが「憧れられるアスリート」を目指す自覚を持ち、自らオリンピズムを学び、その知見や経験を人々に伝えている。

さまざまなステークホルダーがオリンピズムへの理解を深め、さまざまなかたちでオリンピック・ムーブメント(OM)を推進し、メッセージが発信され続け、その価値が多くの人々に届いている。OM推進の拠点である日本オリンピックミュージアムにおいてもステークホルダーと共にオリンピックの価値を発信し、人々とスポーツをつなぎ、オリンピックと社会をつなぐ場として活用されている。

また、第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)をはじめ、国内で開催される国際競技大会やOM事業を通じて、スポーツの魅力を高め、オリンピックの価値が浸透していくことにより、次世代にもオリンピックや国際競技大会を日本で開催することへの理解が広がっている。

オリンピックの価値を発信するJOCの活動が起点となって、スポーツを通じた社会課題の解決に貢献するとともに、TEAM JAPANのファンがスポーツに関心を持つ状態がオリンピック開催時だけでなく継続的に維持されている。

取り組むべき課題

JOC自らがOMを推進するだけでなく、アスリート、指導者を含むアントラージュ(アスリートを取り巻く関係者)のほか、パラスポーツを含めた多くのステークホルダーが主体的にOMを推進し、スポーツを通じた社会課題の解決にも貢献できるよう、連携や情報発信を強化する。

日常的にスポーツに接する人だけでなく、より多くの人々にオリンピックの価値や魅力が届き、共感を得られるよう、TEAM JAPANブランドを活用した活動や戦略的なコミュニケーションを推進する。

また、愛知・名古屋アジア大会成功に向けた取り組みを推進し、国内における国際総合競技大会開催に対する理解を深めていく。

テーマ

オリンピック・ムーブメントの推進

主な施策

- ・日本オリンピックミュージアムの活用
- ・ステークホルダーとの連携 (NF、パートナー企業、パートナー都市等)
- ・東京 2020 大会のレガシー (大会資産) の継承・発展に資する取り組みの推進
- ・国際総合競技大会招致・開催を通じたスポーツの価値発信、オリンピズムの浸透
- ・表彰制度の充実
- ・愛知・名古屋アジア大会の機運醸成

アスリートとの連携と価値向上

- ・憧れられるアスリート育成のための学びの機会の提供
- ・競技に留まらないアスリートの活躍機会の創出 (イベント、学校等)

TEAM JAPAN ブランドの確立・浸透

- ・TEAM JAPAN ブランドを活用した活動推進
- ・ステークホルダー (NF、アスリート、パートナー企業、パートナー都市、JPC 等) との連携
- ・TEAM JAPAN 公式ライセンス商品の拡充
- ・第 25 回オリンピック冬季競技大会 (2026 / ミラノ・コルティナダンペッツォ)、第 34 回オリンピック競技大会 (2028 / ロサンゼルス) の機会を活用した効果的かつ効率的な情報発信

スポーツを通じた社会課題の解決に向けた取り組み強化

- ・TEAM JAPAN Social Action の推進
- ・OM 推進諸事業の活用
- ・ステークホルダー (アスリート、パートナー企業、パートナー都市、JPC 等) との課題意識共有及び連携した取り組みの推進
- ・スポーツを通じた社会課題の解決に向けた取り組みの発信 (社会課題の解決への貢献の見える化)
- ・JOC の環境理念・行動指針・行動計画に基づく環境保全活動への取り組み強化
- ・多様性、共生社会の実現に向けた取り組みの推進

オリンピズムが浸透した社会の実現に向けた発信強化

- ・オリンピズムが浸透した社会の実現に向けたコミュニケーション戦略の推進
- ・SNS の更なる活用とステークホルダーとの連携強化等
- ・アスリートによるスポーツの価値発信の支援 (SNS 連携、メディアトレーニングの推進)

2028 年度マイルストーン

- ・JOC 主催 OM 諸事業の参加者満足度向上 (いずれも 80% 以上)
- ・JOC 主催 OM 諸事業への参加意向の向上 (いずれかの活動への参加希望率 40% 以上、参加希望率 10% を超える活動 1 件以上)
- ・ステークホルダーが主体となる取り組みの増加 (累計 10 件以上)
- ・オリンピックへの関心度の維持・向上 (夏季、冬季いずれも 45% 以上)

- ・アスリートの学びと活動の機会の増加 (オリンピック強化指定選手の研修受講率 10% 以上、活動率 5% 以上)
- ・ステークホルダーと連携した取り組みへの協力の増加 (累計 24 件以上)
- ・「憧れるアスリート・チームがいる」人の増加 (40% 以上)

- ・TEAM JAPAN の名称とエンブレムの認知率向上 (名称またはエンブレムの認知率 70% 以上)
- ・ロサンゼルス 2028 大会後の TEAM JAPAN コンセプト共感度向上 (50% 以上)

- ・ステークホルダーと連携した取り組みの増加 (累計 4 件以上)
- ・スポーツによる社会課題解決に関する JOC への期待の向上 (10% 以上)

- ・オリンピズムの認知度及び共感度の向上 (認知度 25% 以上、共感度 35% 以上)
- ・JOC オウンドメディア及び各ステークホルダーによる発信が効果的に連携できている
- ・国際総合競技大会期間中のアスリートによる社会課題に関する発信件数の増加 (TEAM JAPAN 認定アスリートの 10%)

PILLAR 2

アスリートの育成・支援

“憧れられるアスリート”が
育つ環境をつくっていく。

RISING TOGETHER®





目指す姿

高い競技力と人間力を活かし、充実した人生(キャリア)を歩む「憧れられるアスリート」を育成することが、NFとの共通目標として認識されており、TEAM JAPANの一体感を高め、持続可能な強化体制が創出できている。

アスリート及び指導者・スタッフのウェルビーイングが向上し、アントラージュには「アスリートを中心とした環境づくりへの理解及び支援」という役割が浸透している。選手強化デジタルプラットフォームが確立し、味の素ナショナルトレーニングセンター(味の素NTC)等とのデータ連携の仕組みが構築され、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点(競技別NTC)等でデータを活かした強化環境が実現している。

国際総合競技大会派遣については、ミラノ・コルティナ2026 冬季大会、愛知・名古屋アジア大会、ロサンゼルス2028 大会等の大会でベストパフォーマンスを発揮するため、TEAM JAPAN ハイパフォーマンスプロジェクト等による支援が充実し、国際交流等を含めてアスリート育成のより貴重な機会となっている。

取り組むべき課題

「憧れられるアスリート」を育成するために、安心・安全に競技活動に専念できる環境づくりをNFと共に推進する(競技力向上のための情報・医・科学支援、アンチ・ドーピングを含むインテグリティ教育、メンタルヘルス対策やセーフガーディング等のウェルフェア支援、キャリア教育・支援、データ活用、DE&Iの推進など)。また、アスリートの価値向上に取り組み、資格制度化を含めた指導者・スタッフへの支援やアントラージュへの情報提供及び教育を推進する。

併せて、アスリートの実態把握等を目的とした調査・分析を進め、データ及びテクノロジーの活用による新たな基盤・仕組みづくりを推進し、味の素NTC及び競技別NTCの更なる有効活用に取り組む。

国際総合競技大会派遣については、ミラノ・コルティナ2026 冬季大会、愛知・名古屋アジア大会、ロサンゼルス2028 大会等に向けた対策を早期から検討するとともに、国際情勢や各国動向をふまえ「憧れられるアスリート」育成を念頭に編成方針等の在り方を改めて検討する。

テーマ

主な施策

2028 年度マイルストーン

憧れられるアスリートの育成に向けた支援の充実

- ・JOC アスリートアカデミーの本格運用等による選手間交流、日常的な競技力・人間力の向上及びキャリア形成支援
- ・JOC としての強化戦略プラン作成による競技力向上支援
- ・将来を担うアスリートの人材発掘・育成・支援
- ・アスリートによる社会貢献活動の普及・支援

- ・JOC アスリートアカデミーの利用者満足度維持(80%以上)
- ・オリンピック強化指定選手の JOC の取り組みに対する満足度向上(80%以上)
- ・「憧れるアスリート・チームがいる」人の増加(40%以上)

アスリートを取り巻く環境の整備

- ・スポーツ情報・医・科学・ウェルフェア支援及びアンチ・ドーピング教育の充実
- ・味の素 NTC 及び競技別 NTC の活用促進
- ・アントラージュへの情報共有と教育支援

- ・ウェルフェアにおけるアスリート満足度向上(80%以上)
- ・味の素 NTC 及び競技別 NTC 利用者の満足度向上(80%以上)
- ・セーフガーディングオフィサー資格保持者の増加(3名以上)

指導者・スタッフの育成・支援

- ・学びの機会の充実と競技横断的な交流の促進
- ・指導者・スタッフをサポートする仕組みづくり(メンタルケア、キャリア形成支援等)
- ・スポーツ情報・医・科学支援の充実
- ・JOC ナショナルコーチアカデミー(NCA)の充実と資格化に向けた整備

- ・コーチ設置制度で委嘱している指導者・スタッフの JOC の取り組みに対する満足度向上(80%以上)
- ・ロサンゼルス 2028 大会、ミラノ・コルティナ 2026 冬季大会の TEAM JAPAN 指導者における NCA 修了者 60% 以上

国際総合競技大会派遣を通じた育成・支援

- ・TEAM JAPAN としての一体感醸成と国際交流の推進
- ・大会でベストパフォーマンスを発揮するためのステークホルダー(NF や JSC 等)との連携及び環境づくり
- ・大会エントリー・派遣手続きのデジタル化を含む運用効率化の促進
- ・大会派遣目的や編成方針等の在り方の検討

- ・TEAM JAPAN の一体感を実感し、国際交流を実践したアスリートの増加(50%以上)
- ・大会に参加したアスリートの環境満足度向上(80%以上)
- ・オリンピック等の国際総合競技大会における過去最高水準の競技成績の継続

データ&テクノロジー活用支援

- ・JOC365(選手強化デジタルプラットフォーム)の開発によるアスリート・指導者等の情報一元管理及び個人情報取得ルールの確立
- ・JOC トップスポーツデータベース(TSDB)の安定的な運用によるアスリート・指導者等の情報一元管理
- ・アスリートへのスポーツ情報・医・科学支援とヘルスケア支援の充実
- ・味の素 NTC 及び競技別 NTC のデジタルネットワークを活用した情報提供

- ・TSDB でのアスリート及び指導者等の情報一元管理の実現(関係者登録率 100%)
- ・JOC365 の運用開始

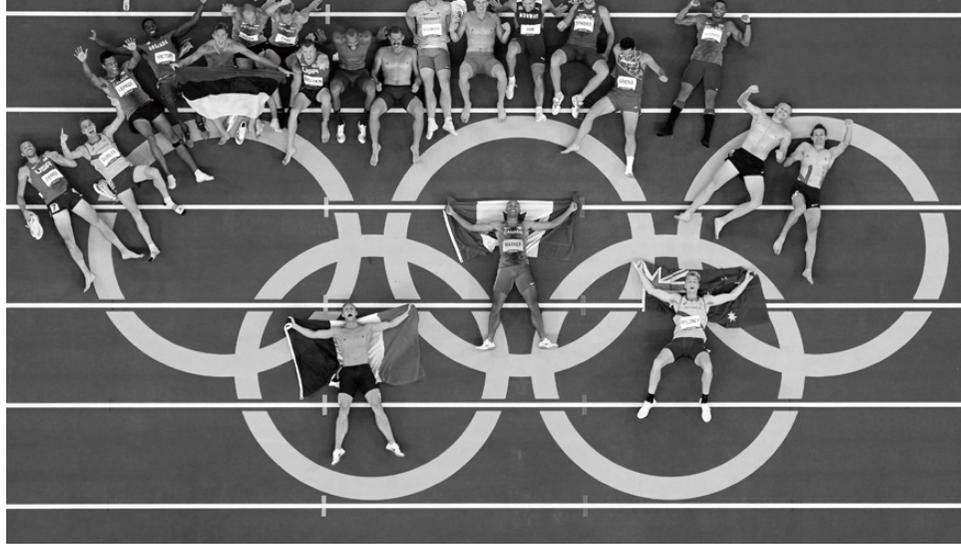
PILLAR 3

RISING TOGETHER®



国際交流の推進

スポーツの力を、
国際平和と友好のために使っていく。



目指す姿

スポーツを通じた社会課題の解決に貢献すべく、国際スポーツ界をリードする国内オリンピック委員会(NOC)として、国際戦略に基づき国際オリンピック委員会(IOC)、アジア・オリンピック評議会(OCA)、国際大学スポーツ連盟(FISU)等国際スポーツ組織や各国・地域NOC等との関係強化、国際貢献活動、国際人材育成を戦略的に行っている。

また、国際競技大会や国際会議を開催し、JOCの国際プレゼンスの向上や国際交流の場として有効に活用している。

さらに、国際貢献・国際交流や国際スポーツ組織との関係強化の重要性を理解して積極的に取り組むNF・アスリートが増えるよう、リーダーシップを発揮して働きかけや支援を行うとともに、具体的なアクションに取り組んでいる。

取り組むべき課題

国際スポーツ界におけるJOCのプレゼンス向上を図るため、JOC国際戦略の基本方針に基づき、国際貢献事業を実施し、国内外のスポーツ組織との連携を通じた国際的なポジションの獲得を推進する。

また、オリンピック・ムーブメント推進のための国際競技大会や国際会議の開催について、より多くの賛同を得られるよう取り組んでいく。

これらの実現に向けて、アスリートを含む国際人材の育成に取り組み、積極的にスポーツを通じた国際交流を推進する。

テーマ

主な施策

2028 年度マイルストーン

JOC の国際プレゼンス向上

- ・国際スポーツ組織のより上位ポストの獲得及び重要な政策決定への積極的関与
- ・国際競技大会・国際会議開催に向けた連携・支援(愛知・名古屋アジア大会等)
- ・NFと連携した国際貢献・国際協力の推進
- ・大会開催時の TEAM JAPAN HOUSE を活用した情報発信及び交流推進

- ・国際スポーツ組織におけるより上位ポストの獲得
- ・ホスト NOC としての愛知・名古屋アジア大会を契機としたアジアに向けた支援協力の増加(累計15件以上)
- ・将来的に国際総合競技大会が自国開催されることへの共感の増加(70%以上)

国内外のスポーツ組織等との連携・交流推進

- ・国際スポーツ組織及びパートナー NOC との連携・交流促進
- ・国際貢献・国際協力の推進
- ・国内スポーツ関係団体をはじめとするステークホルダーと連携した国際情報獲得体制の構築

- ・国際スポーツ組織等との交流の増加(交流実施数年間130件以上)
- ・国内において国際情報を獲得集約できる仕組みが構築されている

NFの国際プレゼンス向上、国際交流の推進に関する連携・支援

- ・NFの国際戦略策定・実施に向けた連携・支援
- ・NFがIF、AF等の重要な政策決定に関与するためのポスト維持・拡大に向けた支援
- ・NFの国際競技大会・国際会議の招致支援
- ・NFと国際団体(IF、AF)、OCOG、他国・地域のNF等との交流における連携・PR
- ・NFと連携した国際貢献・国際協力の推進

- ・IF、AF等の国際スポーツ組織のポスト維持・拡大(IF等役員獲得支援事業実施数年間100件以上)
- ・国際戦略を策定しているNFの増加(46NF以上)
- ・NFと連携した国際貢献・国際協力活動の増加(事業数年間25件以上)

国際人材の育成

- ・体系化した国際人材育成プログラムの開発・運用
- ・アスリートを含む幅広い分野の国際人材の育成(発掘、活用を含む)

- ・国際人養成事業が再構築され、開発されたプログラムが定着している

アスリートの国際交流促進

- ・アスリートの国際交流に対する意識醸成
- ・アスリートによる国際交流の環境・機会の創出
- ・アスリートによる国際交流の発信

- ・積極的に国際交流を実施しているアスリートの増加(オリンピック強化指定選手の50%以上)
- ・国際総合競技大会中にアスリートが国際交流する仕掛けの充実
- ・アスリートによる国際総合競技大会中の国際交流に関する発信の増加(各アスリートが参加大会中に複数回発信)

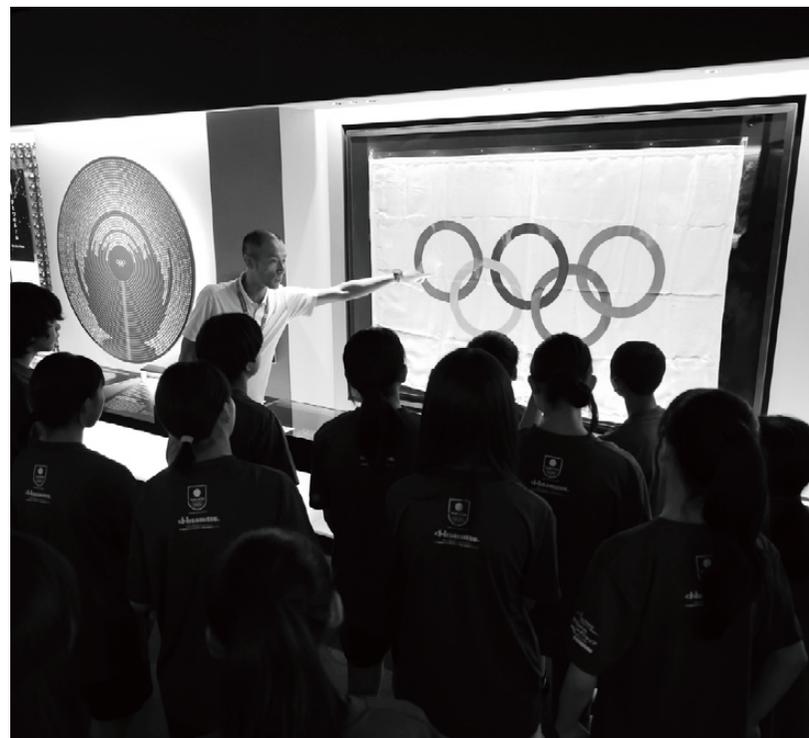
PILLAR 4

JOC 組織力・基盤強化

自らを律しながら、よりよい社会との関係を構築していく。

RISING TOGETHER®





目指す姿

体系的なマネジメントプロセスが定着し、財務管理の方針に基づき継続的な事業遂行のための組織運営体制が構築できている。

また、職員のエンゲージメントが高まり、高いモチベーションを持って働き、成長できる組織へと進化している。

JOCとパートナー企業等はアセットを相互に活用し、ロゴマークや肖像利用に留まらず、連携や協働事業を通じて社会的価値を高めている。

さらに、JOC Vision 2064 やTEAM JAPAN ブランドの考え方が役職員、ステークホルダーに浸透し、統一した情報発信がなされている。

組織内のコミュニケーションの活性化が対外的なコミュニケーションの改善を促し、JOC の活動と TEAM JAPAN ブランドへの社会的理解と浸透が深まることで、組織力・基盤が強化されている。

取り組むべき課題

目指す姿の実現に向けては、組織全体で知見と専門性を最大限に活用し、一丸となって業務に取り組むことが求められる。

部署や職員間でのビジョンやブランドコンセプトの理解度を揃えると同時に、メダル獲得に留まらないスポーツの持つ社会的価値をより明確に打ち出し、NF、パートナー企業、パートナー都市等をはじめとするステークホルダーとの協働によりTEAM JAPANのブランド力を高める。

変化する社会情勢、経済状況に対応した財務計画を策定し、また、役職員の多様な経験や価値観を尊重し、その違いを活かして組織力を高め、事務局においては、専門性が高い業務の属人化を防ぎ、将来を見据えた採用、人材育成、配置、評価を適正に行う。

テーマ

主な施策

2028 年度マイルストーン

組織体制の整備

- ・ 中期計画を推進する組織運営体制の強化
- ・ 社会状況の変化に応じたガバナンスの維持・強化

- ・ 中期計画と年度事業計画がデータベースで進捗含めて管理できている
- ・ ガバナンスコードを遵守した組織運営が維持されている

人財の活性化

- ・ 新人事制度(等級、給与、育成、配置、評価、採用)の適正な運用
- ・ 職員のエンゲージメントの向上に向けた環境整備

- ・ 人事に関する各制度・計画が適正に運用・見直しされている
- ・ 職員のエンゲージメントの向上(エンゲージメント 70%以上)

財務基盤の安定化

- ・ 収支分析に基づく事業予算の精度向上及び適正な執行
- ・ 保有資産の効率的な運用
- ・ パートナー、NF、JPC 等との連携によるマーケティングプログラムの強化

- ・ 収支分析に基づき予算が適正に執行されている
- ・ 次期マーケティングプログラムが開始されている

コミュニケーションの活性化

- ・ ステークホルダー(NF、パートナー企業、パートナー都市、スポーツ庁、JSC、JSPO、JPC 等)とのコミュニケーションの活性化
- ・ 組織内コミュニケーションの活性化
- ・ レピュテーション向上につながる積極的な情報発信
- ・ TEAM JAPAN ブランドの積極活用

- ・ ステークホルダーとの重層的な情報共有機会が設定され、定期的な運用がなされている(各ステークホルダーとの定期会議 年 1 回以上、双方の窓口が明確になっている)
- ・ ステークホルダーと連携したTEAM JAPAN ブランドの活用実績の増加(2024 年度比 1.5 倍以上)

PILLAR 5

NF 連携・支援

競技団体の仲間たちとともに活動していく。

RISING TOGETHER®





目指す姿

NFをはじめとした各団体と連携をとりながら、TEAM JAPANとして一丸となってスポーツの価値を高め、よりよい社会づくりに貢献し、スポーツ界が国民から理解と応援を得ている。

組織や財政の基盤強化のためのJOCによるサポートが充実し、JOCとNF、そしてNF同士も密接に連携・協業して、NFが自立的・安定的な組織運営を恒常的に実現できている。

取り組むべき課題

スポーツ界が社会から信頼を得るためには、われわれスポーツ団体の組織や財政の基盤強化が不可欠である。組織基盤を強化するために、情報提供の機会を充実させ、ノウハウを提供し、人材育成や人的支援を継続的に行うことで、スポーツ団体ガバナンスコードに沿った恒常的な組織運営の実現に寄与していく。さらに、NFジョイントマーケティングを通じた財政基盤強化のサポートを行い、NFのマーケティング基盤整備並びに自助努力による安定した組織運営を促す。

また、「スポーツの価値発信及び社会貢献」、「アスリート育成」、「国際プレゼンス向上、国際交流の推進」をテーマに掲げ、JOC事業とも連携・協業しながらNFの支援につなげていく。特に支援を要するNFを重点的にサポートできるよう、JOCとNF、及びNF間のつながりを深める体制を整備し、スポーツ庁、JSC、JSPO、JPC等の関係機関とも連携していく。

テーマ

主な施策

2028 年度マイルストーン

組織基盤強化に関する連携・支援

- ・NF組織基盤強化に関する連携・支援(会計業務)
- ・NF組織基盤強化に関する連携・支援(ガバナンス、法務サポート)

- ・ガバナンスコードの適合性審査において、要改善事項が指摘されたNFが0となっている

財政基盤強化に関する連携・支援

- ・NFジョイントマーケティングによる連携・支援

- ・NFジョイントマーケティングの取り組みを通じて、各NFのマーケティング基盤整備が進んでいる(参画するNFのマーケティングランクCランクが0団体)

スポーツの価値発信及び社会貢献に関する連携・支援(Pillar 1)

- ・オリンピック・ムーブメント推進事業、競技普及支援活動、社会貢献事業における協働
- ・SNS連携等をはじめとした広報連携

- ・TEAM JAPAN の名称とエンブレムの認知率向上(いずれも70%以上)
- ・ロサンゼルス2028大会後のTEAM JAPAN コンセプト共感度向上(50%以上)
- ・NF及びステークホルダーと連携した社会貢献活動の増加(累計4件以上)

アスリート育成に関する連携・支援(Pillar 2)

- ・憧れられるアスリート育成に向けた支援の充実
- ・指導者・スタッフの育成・支援
- ・DX化による業務効率化等を通じたアスリートを取り巻く環境整備

- ・オリンピック等の国際総合競技大会における過去最高水準の競技成績の継続
- ・オリンピック強化指定選手のJOCの取り組みに対する満足度向上(80%以上)

国際プレゼンス向上、国際交流の推進に関する連携・支援(Pillar 3)

- ・NFの国際戦略策定・実施に向けた連携・支援
- ・NFがIF、AF等の重要な政策決定に関与するためのポストの維持・拡大を支援
- ・NFの国際大会・国際会議の招致支援
- ・NFと国際団体(IF、AF)、OCOG、他国・地域のNF等との交流における連携・PR
- ・NFと連携した国際貢献・国際協力の推進

- ・IF、AF等の国際スポーツ組織のポスト維持・拡大(IF等役員獲得支援事業実施数年間100件以上)
- ・国際戦略を策定しているNFの増加(46NF以上)
- ・NFと連携した国際貢献・国際協力活動の増加(事業数年間25件以上)

さあ、皆さまとともに

「スポーツの力を、社会の力へ」という私たちの中期的な目標は、JOCの力だけで達成できるものではありません。

スポーツの力をいちばんよく知るアスリートはもちろん、ステークホルダーの皆さま、そして社会のあらゆる方々と対話し、協働していくことで実現できる未来です。

新たな場所で、新たな仲間と、新たな関係をつくることから新たな力がうまれてくる。

スポーツを機会とした未来づくりを、さあ、皆さまとともに。

RISING TOGETHER®



第2次 JOC 中期計画(2025-2028)基本目標のコンセプトムービーは、こちらからご覧ください。

発行日：2025年3月

発行：公益財団法人日本オリンピック委員会

写真：アフロスポーツ、フォート・キシモト、ロイター／アフロ、
AP／アフロ、エンリコ／アフロスポーツ、青木紘二／アフロスポーツ、
長田洋平／アフロスポーツ、西村尚己／アフロスポーツ、
松尾／アフロスポーツ、丸山康平／アフロ、YUTAKA／アフロスポーツ

本書についてのお問い合わせ

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号

Japan Sport Olympic Square

公益財団法人 日本オリンピック委員会

TEL：03-6910-5950(代表)

